

6 各種シート様式について

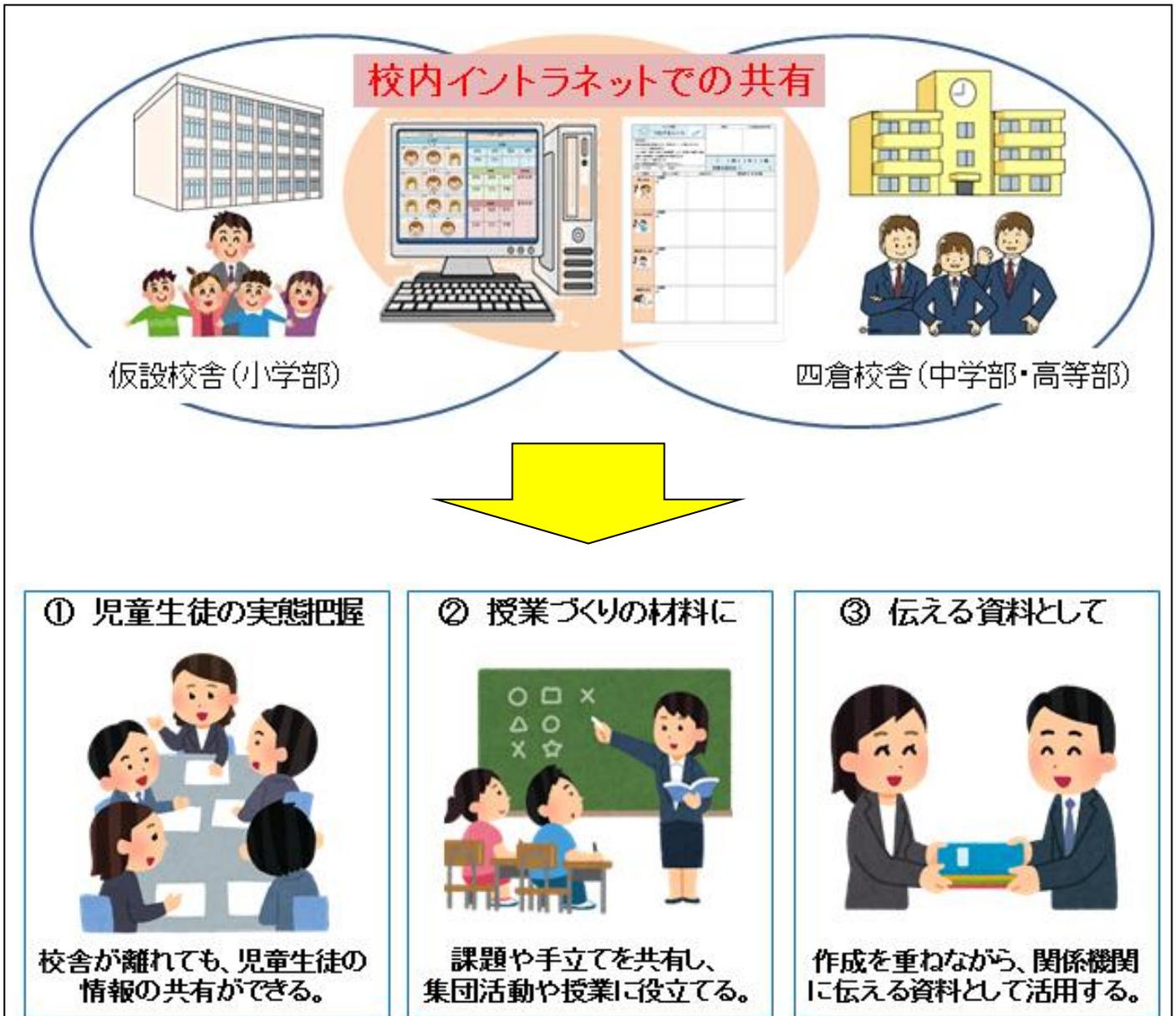
(1) つなげるシート

本校では平成28年度から、小学部・中学部・高等部の児童生徒の実態を把握するための資料として、このシートを作成しています。シートには昨年度までの校内研修で授業づくりの際の観点として扱った「考える力」「やってみる力」「興味をもつ力」「表現する力」の4項目について、対象の児童生徒の実態と目標、支援の際の有効な手立てが記入されます。個別の指導計画や生徒指導部が管轄する生徒資料に比べ写真を貼りつける欄が多くあるため、その子の実態についてより具体的に把握することができます。

本校は今年度から中学部と高等部が福島県立四倉高等学校で学習するようになりました。全校児童生徒は、月に一度程度実施される全校集会で縦割りに編成されたグループで、ゲームやダンスをして交流しています。「つなげるシート」は、離れた校舎間で児童生徒の実態を全教員で把握し、交流や各学部の集団学習などで活用できることを狙いとしています。

今年度作成されたそれぞれの「つなげるシート」は、次年度4月から校内のイントラネットで本校の教職員が閲覧することができるようになる予定です。

【平成30年度のつなげるシート活用のイメージ】



 H29年度 つなげるシート 		顔写真	その他児童生徒を表す写真
<作成の目的> ・個別の指導計画の参考資料とする。(写真を多くし、A4用紙1枚とする。) ・イントラネットで情報を共有する。 ・ヨコ(学校内・学部内・学年内・関係機関等)とタテ(学年間・学部間・卒業後進路先・関係機関等)の共通理解や移行支援等に生かす。 ・ポイントを絞って、簡潔に記入する。 ※注意! 写真画像は画素数を小さくして貼り付けること。		() 部 () 年 () 組 児童生徒氏名 ()	
作成日: H29年 () 月	作成者 ()		
4つの観点	観点ごとの目標	有効な手だて	関連する写真
考える力 	<目標> ○	・	
やってみる力 	<目標> ○	・	
興味をもつ力 	<目標> ○	・	
表現する力 	<目標> ○	・	

(2) ICT授業活用「紹介シート」

本校では今年度から、それぞれの学部でICTを授業の中で活用することを推奨し、その成果を共有するための資料としてこのシートを作成しています。

各学部には、タブレットや電子黒板やパソコン、ビデオカメラなどの機器が準備されていますが、教員によって活用の度合いには差がある状態でした。そこで、このシートを作成・活用することで、機器の活用の方法や授業の中での活用事例などを教員間で共有することができるようになりました。また、研究授業の中にもICTの視点が入り入れられたり、事後研修会の中で、アドバイスが行われたりするようになってきています。

年に2回行われる情報教育研修会の中で、このシートを紹介する機会をもつとともに、教員全体で見ることができるイントラネットなどの中で閲覧することができるようにする予定です。

(2) - ① ICT授業活用「紹介シート」の例

ICT授業活用「紹介シート」	
() 学部 学習グループ () 記入者 ()	
児童生徒・学習グループの実態 .	
授業のICT活用のねらい .	
活用方法	
写真	使用した端末 .
	使用したアプリやソフト等 .
	使い方 .
成果	課題
.	.

I C T 授業活用「紹介シート」

(小) 学部 学習グループ (2年1組) 記入者 (八巻・二上)

児童生徒・学習グループの実態

- ・ 児童の興味関心のある題材を取り上げることで、集中して取り組むことができる。
- ・ 視覚優位、聴覚優位の児童がいるため、視覚的教材の提示と共に、端的に言葉を添えることで、2名とも理解しやすい。

授業での I C T 活用のねらい

- ・ 算数の授業に興味関心をもち、意欲的に授業に取り組むことができる。
- ・ 視覚支援により、「わかる・できる」を実感しやすくなる。

活用方法

写真



使用した端末

ノートPC、テレビ

使用したアプリやソフト等

PowerPoint

使い方

- ・ プレゼンテーションソフトに視覚支援用の写真や文字を貼り付け、アニメーション設定で順番に提示する。



成 果

- ・ ノートPCだけではなく、実際に身体を動かすなど活動する時間を意識的に取り入れることで、より意欲的に学習に取り組むことができる。
- ・ 1つの画面を見ながら2名が学習を進めることで、1名が分からない時にもう1名がヒントを出すといった、教え合う姿が見られるようになった。

課 題

- ・ 1授業あたりの作成時間が数時間かかることもあるためにソフト操作に慣れるまでの手間はかなり大きい。
- ・ ソフトの一面倒に陥らないように児童の表情により気を配る必要がある。

ICT授業活用「紹介シート」

(小) 学部 学習グループ (3・4年 複式) 記入者 (石橋佳奈)

児童生徒・学習グループの実態

・2名とも今までの校外学習で切符を購入したことがあるが、経験の少なさから教師の支援を受けて行っていた。2名ともボタンを狙って押すことはできるようになってきた。そのため、繰り返し練習することで、少ない支援で切符を購入することができるのではないかと考えた。

授業でのICT活用のねらい

- ・アプリを用いて、券売機の画面を再現することで、実際の状況に近い形で切符を購入する体験をすることができる。
- ・また、I-Padを使うことで、繰り返し練習することができる。

活用方法

写真



使用した端末

- ・I-Pad (小学部用)

使用したアプリやソフト等

- ・「Keynote」

使い方

- ① 好きなデザインを選択する。
- ② スライドを作成する。
- ③ アニメーションを加える。
- ④ スライドを表示する順番を設定する。



iOS版「Keynote」の新しいリモート機能

成果

・実際の状況に近い形で、繰り返し練習することができた。校外学習当日、切符を購入する場面で1名は自分で正しいボタンを押して切符を買うことができた。もう1名も画面を押すことが分かり、教師と一緒にボタンを押したり、自分で切符を取ったりすることができた。

課題

・実際の券売機と全く同じ画面を再現することが難しく、簡易的なものになってしまったため、実際の状況に近づくよう改善していきたい。また、ボタン以外の黒い画面を押してもスライドが進んでしまうため、正しい操作ができないことがあった。

I C T 授業活用「紹介シート」

中学部 学習グループ 音楽

記入者（ 木谷 俊彦 ）

児童生徒・学習グループの実態

- ・ 中学部 10名の生徒が、おおすげ祭のステージ発表に向けたフラダンスや EX ダンス体操の練習に取り組んでいる。（ダンスの基本の動きの習得）
- ・ 撮影したダンスの映像は、生徒から見ると本来の動きと反対向き（左右が逆の動き）になっている。映像を見て左右逆向きに踊る必要があるため、正しい動きを習得することが難しい。

授業での I C T 活用のねらい

- ・ 映像を反転させることで、正しい向きのダンスの練習を行うことができる。

活用方法



使用した端末

- ・ タブレット、PC、大型テレビ

使用したアプリやソフト等

- ・ カメラアプリ、Adobe Premiere Elements

使い方

- ・ iPad アプリの「ビデオ」で手本となるダンスの映像を撮影する。
- ・ 動画編集ソフト「AdobePremiere」を活用し、映像を左右反転させる。
- ・ 映像の動きを真似て踊ることで、正しい動きを習得することができる。

成 果

- ・ 左右の動きが異なっていたため、左右の動きを間違えて覚えてしまっていた生徒も、映像の動きをまねて踊ることで、正しい動きに修正することができた。
- ・ 大型（70型）のテレビモニタを活用することで、生徒全員が映像の細かい動作等を確認することができる。

課 題

- ・ 編集作業を要する。

ICT授業活用「紹介シート」

(中) 学部 学習グループ (国語)

記入者 (花岡 賢)

児童生徒・学習グループの実態

- ・ 2名のグループである。1名は、漢字の筆記では6年生までの漢字の70%程度を暗記している。しかし、音読み訓読みの理解が曖昧であり、繰り返しの学習の中で理解を深めていくことが必要である。1名は、4年生までの漢字の50%程度を暗記しているが、複数の読み方がある漢字には対応できていない。
- ・ iPadの操作が単純で自分で対応できる。それぞれのペースで学習を進めていくことができる。

授業でのICT活用のねらい

- ・ 理解の段階に応じて、自分のペースで学習を進めていくことができる。
- ・ その場で間違いを訂正し、成功の評価を得る事で達成感を味わう事ができる。
- ・ 合格したらシール貼るように表を作りはることで意欲を高めることができる。

活用方法



使用した端末

- ・ I-Pad (学部所有)

使用したアプリやソフト等

- ・ 「漢検トレーニング」(無料)

使い方

ランダムに表示された平仮名の中から正解となるよう一文字ずつ手裏剣を投げるようにスラッシュし、読み方を答える。

成果

- ・ 授業中だけでなく、休み時間に自ら取り出し、ゲームをする姿が見られるようになった。
- ・ 表のシールが増えることを楽しみにしており、さらに難しい学習への意欲が高まっている。

課題

- ・ 正解、不正解がすぐに分かるが、不正解したものの記録が残らないため、その部分の記録は教師がとる必要がある。

I C T 授業活用「紹介シート」

(高) 等部 学習グループ (1年1組) 記入者 (佐藤雄哉)

児童生徒・学習グループの実態

- ・ 3名の生徒それぞれが朝の運動 (スポーツタイム) に意欲的に取り組んでいる。
- ・ マラソンの際、男子1名が特定の女子生徒の後ろを走りたがる。

授業での I C T 活用のねらい

- ・ 体育館のトラック周りを走る際に、自分が走った周回数を記録することができるようにする。
- ・ 周回数に意識を向けることで、一定のペースで走ることや自分の目標数に向けて走り続けることができるようにする。

活用方法

写真



使用した端末

- ・ I-Pad (担任所有)

使用したアプリやソフト等

- ・ 課題学習支援アプリ「いくつできるかな?」

使い方

- ・ 「せってい」で課題名 (朝のマラソン) と生徒の名前、顔のイラストを入力する。
- ・ 毎回マラソンを走る際に体育館ステージに I-Pad を設置する。
- ・ 「一周走ったら自分の名前が書かれたイラストをタッチする。」と生徒に説明する。
- ・ マラソンが終わった後、教室の表「マラソンのきろく」にそれぞれの生徒の周回数を記入するよう呼びかける。

成 果

- ・ 生徒は自分の走った周回数を把握することができ、自分の記録を教師に伝えたり、「明日は〇周走る。」と伝えたりするようになった。
- ・ マラソンに集中して取り組むようになり、「特定の生徒の後ろを走る」という気になる行動も見られなくなった。

課 題

- ・ 1台の I-Pad を3名で使用するため、1週走ると同時にタッチする際に待ち時間ができてしまう。

I C T 授業活用「紹介シート」

(高) 等部 学習グループ (自立活動) 記入者 (山内勇人)

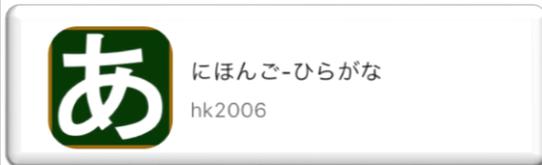
児童生徒・学習グループの実態

- ・生徒は、日常会話はある程度できるが、文字の読み書きが難しく、継続した練習の中で、自分の名前をアンバランスな平仮名で書けるようになってきている。
- ・iPad の操作の仕方を覚え、自分一人で学習を進めていくことができる。

授業での I C T 活用のねらい

- ・文字 (平仮名) に興味をもち、進んで学習することができる。
- ・教師が近くにいなくても、自分で学習を進めることができる。
- ・遊び感覚で、飽きずに学習することができる。

活用方法



使用した端末

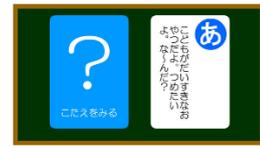
- ・I-Pad (生徒所有)

使用したアプリやソフト等

- ・「にほんご-ひらがな」(無料)

使い方

- ・音声と音楽 (リズム) で楽しく学習することができる。書く学習だけでなく、絵を見て答えるクイズやゲームがある。



成 果

- ・授業中だけでなく、休み時間に自ら取り出し、ゲームをする姿が見られるようになった。
- ・自分で準備して片付けをする学習に見通しがもて、自身をもって取り組めるようになった。

課 題

- ・正解、不正解がすぐにわかるが、不正解だった場合に、すぐに隣の文字をタップすると正解となるため、間違えたことが記憶に残りにくい。

7 研修のまとめ

本校では今年度4月から、これまでの仮設校舎である本校舎では小学部、四倉高校内に
ある四倉校舎には中・高等部が移動して、二つの校舎に分かれての生活が始まりました。

これまで同じ校舎の中で小・中・高等部、三つの学部が共に過ごし、学部間の系統性・
連携を大切に日々の実践を進めて過ごしてきました。

今年度は、これまで築き上げてきたつながりをどう保っていくのか、職員全員が全児童
生徒のことをよく理解して、一つの学校として共有していくための実践をどう積み重ねて
いくか大きく試される年でもありました。昨年まで培ってきた授業づくり、授業改善、つ
なげるための体制作りをさらに深められるよう取り組んできました。

小学部では、同じ学年または上学年の学習集団での実践を進める中で、子ども達の仲
間意識を引き出しながら活動の幅を広げていくことができました。それぞれのグループで
の実践を共有し合い、次のステップへとつなげていくことを大切と考えています。

中学部では、各学級の課題について学部全体で共有し合い、一貫した指導をするために
課題設定・発問等の工夫シートを作成することで、生徒理解の方法や課題解決のための指
導の手立てをつかむことができました。今後は、学校全体で共有できるよう検証していく
ことを目指します。

高等部では、「授業づくり」と「生徒とのかかわり」について取り上げ実践を行った。授
業づくりについて様々な視点からの意見や提案を出し合いました。生徒とのかかわりに関
しては、生徒に伝えたい内容や専門的な用語について認識することができ、授業の中に取り
上げることができました。高等部という年齢層の生徒と接する教員としての心構えにつ
いて学部全体で共通理解を図ることができました。

今年度の取り組みの課題として、「つなげるシート」の活用と「授業の振り返り」の充実
と徹底をあげたいと思います。特に、「つなげるシート」に関しては、作成に留まってしま
い、活用には至りませんでした。二つの校舎に分かれた学びの場を展開している今、離れ
た場所においても分かり合えるために有効活用することが必要であるため、行事や共同学習
の場面においてその力を発揮できるよう活用の仕方を検討していきたいと思います。

「授業の振り返り」に関しては、教科、作業学習などの集団活動、合同学習の場面での
児童生徒の変容や授業の進め方、発問等に関して意見を交換し合い、次の授業に生かすこ
とが大切であり、授業改善に向けた場にする取り組みを続けていくことが必要となり
ます。

次年度においては、学習指導要領の改訂を踏まえた授業づくりを視野に入れた取り組み
を目指していきたいと考えます。

8 おわりに

平成29年4月から中・高等部が四倉高等学校内に移り、2つの校舎に分かれての教育活動がスタートして、まもなく1年が過ぎようとしています。

今回の研修集録では、2つの離れた校舎で一つの学校として学びを展開するために、「つなげるシート」の活用や「教室フリートーク」の取組など、本校独自の活動が紹介されています。また、学部ごとの研究に加え、ICTの活用にも力を入れて取り組んでいるところです。今年度の成果である研修集録をお読みいただき、忌憚のない意見をいただければ幸いです。

さて、研究や研修に関して、2つのエピソードを紹介することでおわりの言葉に代えたいと思います。

1つ目は、自分が最初に勤務した福島市立福島養護学校での体験です。当時の福島養護学校は、研修がとにかく厳しく、全校テーマを受けた学部研修のほかに、一人一人が実践事例をまとめなくてはならない決まりがありました。ここでの4年間は、夜遅くまで議論したり、研究のまとめをしたり、かなり大変ではありました。しかしながら、1つの考え方（その当時は梅津八三先生のコミュニケーション行動の理論をベースに研究を進めていました。）を中心に据え、理論に基づく実践のあり方について皆で議論し、研究成果としてまとめていく過程を身をもって体験できたことは、自分にとっての大きな財産であり、その後の教育活動を進める上での礎となっています。若い時期、こういった苦勞をすることは、大変ではありますが、あながち悪いことではないなと感じています。（もう一度、同じことをやれといわれるとさすがに難しいですが・・・）

2つ目は、授業の事後研究会で述べられた本校安斎浩事務長の言葉です。安斎事務長には、研究授業の授業参観や事後研究会にほぼ全部参加いただきました。そして、教員にはない、新たな視点での助言をたくさん出していただき、本当に感謝しております。その助言の一つに次のような言葉がありました。「事務職の世界には、事後研究会のように教員仲間が集まって、協議をしたり、指導をしてもらう機会はない。こういった研修が行われることは本当に素晴らしいことだ。」と。この言葉をかみしめ、教員同士が協働して、よりよい授業を作り上げられるよう、今後も精進していければと思います。

教頭 佐藤 浩士